



決め手は、青森県産。

りんご生産情報第5号
(6月6日～6月18日)

令和2年6月5日発表
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



良果を見極め、仕上げ摘果に全力を！
「6月中旬」の散布は、6月17～18日頃!!
黒星病の発病葉・発病果は見つけ次第摘み取りを!!!

I 概要

6月1日時点の果実肥大は、落花日以降、一時的に低温や日照不足になったものの、その後、天候が回復したことから、平年並から平年をやや上回っている。

今年の一部でカラマツが見られるものの、結実量は確保されている。肥大や果形にバラツキが見られており、仕上げ摘果は果実の形質を見極めてからできるだけ早く終了する。

「6月中旬」の薬剤散布は、6月17～18日頃に行う。散布間隔と散布量を遵守し、散布予定日に降雨が予想される場合は事前散布に徹する。

黒星病の発生は、現在のところ少なく推移しているが、一部園地で発生がみられている。

今後も、油断することなく園地の状況を確認し、発病葉や発病果は見つけ次第摘み取り、土中に埋めるなど、適切に処分する。

II 生産情報

1 果実肥大、作業の進み、病害虫の動き

(1) 果実肥大

本年は、落花日以降、一時的に低温や日照不足になったものの、その後、天候が回復したことから、各品種とも果実肥大は平年並から平年をやや上回っている。

果実肥大 (6月1日現在、横径cm、平年比%)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	ふ じ
黒 石 (りんご研究所)	本 年	2.0	2.2	1.7
	平 年	1.7	1.8	1.5
	前 年	2.3	2.6	2.1
	平年比	118	122	113
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本 年	2.0	2.0	1.4
	平 年	1.7	1.7	1.3
	前 年	2.3	2.4	2.1
	平年比	118	118	108
青森市浪岡吉内 (東青地域県民局)	本 年	1.6	-	1.3
	平 年	1.6	-	1.3
	前 年	2.1	-	1.9
	平年比	100	-	100
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本 年	1.8	2.0	1.6
	平 年	1.8	1.8	1.4
	前 年	2.2	2.3	2.0
	平年比	100	111	114
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本 年	1.8	1.8	1.5
	平 年	1.6	1.6	1.4
	前 年	2.1	2.1	1.9
	平年比	113	113	107

※1 各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

※2 三戸町梅内の本年データは6月2日調査

(2) 作業の進み (6月3日現在)

世界一や金星等の小袋かけはほぼ終了している。

王林等の一つ成り摘果は終盤である。

(3) 病害虫の動き

(6月4日現在、りんご研究所)

腐らん病	摘果後の果柄感染継続中
黒星病	葉・果実とも分生子による2次感染継続中 無防除の県予察圃での新梢葉の発病葉率(ふじ) (本年:黒石5月30日6.1%、平年:黒石5月30日11.4%)
斑点落葉病	まもなく葉上病斑がみられる(平年:黒石6月20日)
褐斑病	まもなく葉上病斑がみられる(平年:黒石6月21日)
ハダニ類	卵～成虫が混在、幼虫～成虫が葉を加害中
リンゴコカクモンハマキ	まもなく越冬世代成虫の羽化始まる (成虫初発 平年:黒石6月4日)
モモシンクイガ	越冬世代成虫の羽化始まる (成虫初発 本年:黒石6月3日、平年:黒石5月30日)
ナシヒメシンクイ	越冬世代成虫の羽化はほぼ終了 (成虫終息 平年:黒石6月8日)
キンモンホソガ	老齢幼虫主体、まもなく第1世代成虫の羽化始まる (第1世代羽化50% 平年:黒石6月21日)
クワコナカイガラムシ	越冬世代幼虫の移動がほぼ終了 (移動終息 平年:黒石6月4日)

2 作業の重点

(1) 病害虫対策

ア 黒星病対策

現地での発病は現在のところ少なく推移しているが、一部園地では果そう葉や新梢基部葉で発生がみられている。

園地の状況を確認し、発病葉や発病果は見つけ次第摘み取り、土中に埋めるなど、適切に処分する。

イ 第7回目の薬剤散布「6月中旬」

「6月中旬」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で6月17～18日頃に行う。散布量を守り、散布間隔を空けすぎない。散布予定日に降雨が予想される場合は事前散布に徹する。

なお、この時期からモモシンクイガの防除剤を毎回使用する。

薬剤の使用時期及び年間使用回数には十分注意する。

第7回目：「6月中旬」

地域	時期	薬剤名と倍数	散布量/10a
黒石	6月17～18日頃	炭酸カルシウム水和剤 100倍	5000
		アントラコール顆粒水和剤 500倍	
又はパスポート顆粒水和剤 1,000倍			
弘前		又はラビライト水和剤 500倍	
三戸		又はチウラム剤 500倍	
		〔チオノックフロアブル トレノックスフロアブル〕	
		又は有機銅剤	
		〔キノンドー顆粒水和剤 1,000倍 オキシンドー水和剤80 1,200倍〕	

ウ 腐らん病対策

枝腐らんは、見つけ次第、切り取って処分する。

胴腐らんも見つけ次第、泥巻き法か、削り取り法で治療する。また、以前に治療したものであっても確認し、適切に処理する。

腐らん病は摘果後の果柄から侵入・感染するので、果台に果柄が残らないようにする。

摘果後の果柄感染による枝腐らんの発生の多い園地では、「6月中旬」にラビライト水和剤500倍を選択する。

エ 有袋栽培におけるすす斑病対策

袋かけ前の薬剤散布が重要なので、散布間隔を空けすぎないようにし、果実

にも薬液が十分付着するようにする。毎年のように本病の発生が見られる園地では定期散布後5日以内を目安に袋かけを行う。その後も袋かけを継続する場合は、次の定期散布までの間に袋かけを予定している樹を対象に有効な薬剤による特別散布(実洗い)をしてから行う。

オ シンクイムシ類対策

放任樹(園)が付近にあると発生源になるので伐採する。また、もも、なし、日本すもも、西洋すもも(プルーン)、マルメロなども発生源になるので、適切な管理を行う。

カ ハダニ類対策

発生状況に応じて適正な防除を行う。散布の目安は1葉当たり2個体以上あるいは寄生葉率50%以上である。殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、年2回以内使用のものでも年1回の使用とする。

サンマイト水和剤とバロックフロアブルは、リンゴハダニだけの、マイトコーネフロアブルは、ナミハダニだけの適用なので、薬剤の選択には十分注意する。

リンゴハダニとナミハダニに対する殺ダニ剤の適用表

薬剤名	年使用回数	リンゴハダニ	ナミハダニ
サンマイト水和剤	1回	○	×
バロックフロアブル	2回以内	○	×
エコマイト顆粒水和剤	1回	○	○
オマイト水和剤	1回	○	○
コロマイト乳剤	1回	○	○
マイトコーネフロアブル	1回	×	○

○：適用する、×：適用しない

コロマイト乳剤は、6月下旬までの使用を避ける。

オマイト水和剤は、7月下旬までの使用を避ける。

(2) 摘果

今年の一部でカラマツが見られるものの、結実量は確保されている。

現在、摘果作業が行われているが、肥大や果形にバラツキが見られている。

摘果が遅れたり、着果量が多いと、今後の玉伸びだけでなく花芽形成などに悪影響を及ぼすので、仕上げ摘果は果実の形質を見極めてできるだけ早く終了する。

摘果は、結実量の多い樹から始め、枝の下面に成った果実や、さかさ実、果台が長い果実(ふじではおよそ2cm以上)はできるだけ摘み取り、葉が多く付いた果そうに成った果実で、果柄(つる)が太く長く、肥大が良好で形の良いものを残す。

特に、今年果台の長い果実がみられることから注意する。

中心果が欠落したり形質が悪い場合は、側果の中から形質の良いものを残す。

また、結実量が少ない場合は、樹勢調節のために発育や果形の悪い果実でも残すようにする。

品種別の標準的な着果程度

品 種	摘果の強さ (残す果実)
紅玉	3頂芽に1果
つがる・ジョナゴールド	3.5頂芽に1果
ふじ・王林・早生ふじ・トキ・シナノゴールド・きおう・金星・シナノスイート・未希ライフ・ぐんま名月・さんさ・春明21・星の金貨・千雪・夏緑・恋空・祝・花祝	4頂芽に1果
北斗	4.5頂芽に1果
陸奥・世界一	5頂芽に1果

(3) 乾燥対策

苗木や若木は乾燥の影響を受け易いので、園地の状況を把握し、干天日（降水量5mm未満の日）が2週間程度続いたら、1㎡当たり200程度をかん水する。また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

(4) 袋かけ

ふじは、有袋にすることにより、つる割れの軽減や着色の向上、収穫期の分散ができるほか、販売戦略上も重要であるので、有袋栽培に積極的に取り組む。

袋かけは7月10日頃までに終えるようにする。

有袋栽培では、すす斑病やクワコナカイガラムシの防除対策を徹底する。

(5) ビターピット対策

ビターピットは幼果期(6月)の少雨や夏期を中心とした生育期間の高温によって発生が多くなる。例年よりも樹勢が強いと見られる場合や、幼果期の少雨、夏期の高温が予想される場合、下表によりカルシウム剤を直接果実に付着するように散布する。

なお、樹勢の弱い樹や高温時、あるいは干ばつ時には薬害発生（葉縁褐変）の恐れがあるので避ける。

カルシウム剤の散布方法

資材名	散布時期 (散布間隔)	資材形状	水100ℓ当たり 使用量 (倍数)	散布回数 (回)
スイカル	6月上旬～9月中旬 (10日以上)	粉状	330 g (300倍)	3～5
セルバイン	6月上旬～9月上旬 (10日以上)	粉状	250 g (400倍)	3～5
アグリメイト	6月上旬～9月中旬 (15日以上)	液状	200ml (500倍)	5

3 一般作業

- (1) 追肥 (2) 草刈り (3) ひこばえ、徒長枝の整理

4 今後の作業予定 (6月19日～7月2日)

- (1) 薬剤散布 (「7月初め」) (2) 摘果 (3) 袋かけ (4) 草刈り
(5) ひこばえ、徒長枝の切り取り (6) 高接ぎ樹の誘引及び捻枝
(7) ビターピット対策 (8) マメコバチの巣箱回収

《 りんご黒星病の予想感染危険日 》

黒星病徹底防除推進期間中(4月～6月)、りんご黒星病の予想感染危険日と感染危険度をアップルネット (<https://www.applenet.jp/>) に掲載します。

予想感染危険日は、天気予報から予想した黒星病が感染する危険性が高い日のことです。感染危険日に散布を予定している場合は、気象情報に注意し、降雨前散布を徹底しましょう。感染危険度は過去の気温と湿度のデータから、黒星病の感染の危険性の高さを示しています。

黒星病徹底防除推進期間中(4月～6月)、放任園等発生防止強化月間中(5月)

《 農薬使用基準の遵守 》

青森県農薬危害防止運動期間中(5月1日～8月31日)！

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更される農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用する必要があるため、変更の有無を次のWebサイトで確認してから使用する。

○農林水産省「農薬情報」

http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/

○(独)農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

○青森県農業情報サービスネットワーク「アップルネット」農薬情報

<https://www.applenet.jp/>

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

—— 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを！！ ——

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

◎果樹共済

「果樹共済」はりんご・ぶどう・ももを対象として、災害による収穫量の減少、樹体の損傷に対する損害を補償します。

暴風雨等の特定の災害に限定して補償する「特定危険方式」は令和3年までで廃止され、令和4年からは病害虫も対象となる「総合方式」のみとなります。

また、令和3年産に向けた、りんごの「総合一般方式」の申込期間が6月5日～7月5日となっていますので、お忘れなく！

◎農業経営収入保険

「農業経営収入保険」は、災害による減収に加え、市場価格の低下など農業者の経営努力では回避できない理由により販売収入が減少した場合も補償の対象になる総合的なセーフティネットです。（青色申告の実施が要件）

※詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

《 ポジティブリスト制への対応 》

農薬の飛散により、周辺住民及び作物に被害を及ぼすことのないように、散布情報の提供・交換等地域が連携し、農薬飛散低減対策に留意して散布を行う。

《 農作業安全を心がけましょう 》

機械を使って作業を行う際は、焦らず、急がず、慎重に、を基本に事故のないよう十分注意しましょう。はしごの上で作業する時は、足場がしっかり安定しているか確認するとともに、天板の上には乗らないようにしましょう。園地に出かける際は、携帯電話を必ず持参し、家族などに行き先や帰宅時間を伝えてから出かけるようにしましょう。

農作業安全を心がけましょう！

次回の「りんご生産情報」第6号は6月18日(木)発表の予定です。

連絡先 : りんご果樹課生産振興グループ
電話番号 : 017-722-1111代表
 内線 5097, 5092
 017-734-9492直通